
輝く花 ～短編集～

ジニー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

輝く花 ～短編集～

【Nコード】

N9957X

【作者名】

ジニー

【あらすじ】

”輝く花”の裏話！

テレサ目線の裏ではみんなどんな風に思ってたのか、やテレサと出会う前の皆などのお話を載せたいと思います。

暇になった時にフラッと載せると思います！！

あいさつ

こんにちは、ジニーです。

いつも見てくださり、ありがとうございます！

今、輝く花を連載させてもらってますが、そこには出てこない裏の話をここに載せたいと思います。

例えば・・・ドーセット&クライドとスコープィウスの出会いとか、ドーセット&クライドとアルバスたちの出会いとか・・・

他にも、色々考えてます

・・・・・・・・まあすぐにネタ尽きると思うけど。

時々、ほんつとーうに時々、暇になってなんか思いついたら投稿したりします。

あと、全然ネタがなかったらホグニユをこっちに載せることになるかもしれないw

何卒、よろしくお願い致します。

トリック・オア・トリート！（前書き）

これは時間気にしない短編集なので、バラバラですW

で、これはアイリスの子どもの時…

このころは、まだお化けが苦手だったのですW W

トリック・オア・トリート！

「お、お母さん…これ、誰!？」

目の前には頭に釘が貫通したお化けや魔女、ミイラ男…

も、もうやだ…こんなならこんなパーティー来なければ良かった！

あゝもう、泣きそう…

今はご察しの通り、ハロウィンとかいうパーティー。

お化けの類がちょっと苦手なあたしにとってはもうダメ。

…んもう！お母さんがお菓子たくさん貰えるよ、とか言うつから来たの…

全然お菓子の雰囲気なんてないじゃん。

「おっライトさんたちじゃないですか」

お母さんの袖をギュッと掴んで縮こまっていると、包帯グルグル巻の人が近づいてきた。

「…ひいっ」

ちよっと声を上げて慌ててかげに隠れる。

「ちょっとアイリス！コソコソしちゃダメよ」

「だ、だつてえ……」

ああ怖い… 一人でいいから家に帰りたいつ！

そんなことをあたしが思つてると知ってるのか知らないのか…愛想よくお母さんが挨拶している。

そんなこんなで角（っ）こで小さくなつてると…

「あ、アイリス…！！！」

魔法の格好をした女の子がこっちに駆けてくる。

「ケ、ケイト…?」

「あ、分かった？」

フフツツと笑うあたしの幼馴染、ケイト。

「な、なんでケイトまでそんなカツコ…」

「あり？アイリス、知らないの？今日は仮装して楽しむんだよ！」

「へ、へえ…」

「ねね！お菓子、貰いにいかない？」

「お、お菓子??どつやってもらひの?。」

「あゝそれも知らないか!ただ、『トリック・オア・トリート!』
って言えばいいの!!。」

「そなの?。」

「うん!ホラ、行こうよ。」

ニツと笑ったケイト。

強引にあたしの手を引きながらお化けが固まるところに行く。

「トリック・オア・トリート!!。」

ケイトが元気よく叫ぶ。

「あらあら、元気ねえ。悪戯されちゃ嫌だから、はい、お菓子。」

外見とは裏腹に優しい声の人がケイトにお菓子を渡している。

「あ、そっちの子も?。」

「ト、トリック・オア・トリート...?。」

ボソボソと呟いてみる。

「はいはい、どつぞ!。」

あたしの手には、1つの飴玉が乗る。

うわ…お菓子ってこーいうことだったんだ…

テンションがグツッと上がる。

「ホラアイリス！もっと行こうよ！」

「もっちろん！！」

10分足らずで、両手にたくさんのお菓子が。

「うわお！おいしい」

「ケイト、食べるの早い」

「いーのいーの！こーゆーのは早く食べた方がいいんだよ」

「んもっ！！」

クスクス笑いながら、あたしもお菓子を食べる。

口の中に甘い味わいが広がる。

「うーん、おいしい！！」

2人でキヤイキヤイ言いながら食べてると、あたしたちのお母さんが寄ってきた。

「ほら、たっくさんお菓子もらえたでしょ？」

「..」

たまには「..」のものも楽しいな！

トリック・オア・トリート！（後書き）

…こんな毎日が続くとは思ってなかったけど…ね？

ホグワーツ特急　くアルバスく

ガタンゴトン・・・・・・・・

汽車がゆっくりと揺れながら、ホグワーツに向かって進む。

大きいコンパートメント（謎プリの映画で、ドラコが乗ってた6人席が4つくらいあるところ）です。by・ジニー）には、僕・ローズ・ドーセット・クライド・リサ・フレッドが乗っている。

1番奥だからか、「空いてる？」ってのが来ない。

まあ、後でジエームズも来るはずなんだけどね。

「うわ〜！やっぱり外の世界はいいよね〜」

さっきからドーセットは外の景色を眺めてはきゃあきゃあ言っている。

「・・・姉ちゃん、うるさい・・・」

そして、毎度毎度クライドが注意する。

ローズとリサは、自分たちの親の店の賞品を見せ合っている。

ライバル同士のはずなんだけどなあ・・・・・・・・

フレッドはというと、さっきから何か考え込んでいる。

どうせ、悪戯のことだと思っただけだね

ガラッ

ドアの開く音がする。

みんなが一斉にそちらを向く。

「え……つとごとく、空いてる？」

プラチナブロンドの髪をオールバックにした男の子が、顔を覗かせながら言った。

「あ、スコーピウス……！」

すると、振り向いたドーセットが顔を輝かせた。

「あれ、ドーセットとクライド？」

「あゝ全然いいよ！入って入って」

ニコニコと笑いながらドーセットが スコーピウス？の手
を引いた。

「んと……僕は、スコーピウス。君たちは？」

サッと僕に視線が集まる。

僕に言えっこと？人任せにしないでよね……

「あ、僕はアルバス。で、こっちがローズ、その隣がリサ。あっち側に座ってるのがフレッド。」

「へえ、いい名だね。よろしく！」

「こちらこそよろしく！」

うん、いい奴だ。

気が合いそうな気がする。

「スコピウスは、クライド達と知り合い？」

「うん、ダイアゴン横丁で会ったんだ」

「あれ？僕たちと同じじゃん」

「アルバスたちと会う前にあったの！！」

ドーセットが横から話してきた。

「へえ……」

「私たちが、移動キーだかなんだかで行ったところに居たのよ」

「ふうん……」

そのまま数分ペチャクチャ話していると、クライドが隣から囁いて

きた。

「あのな・・・姉ちゃんってスコープピウスに一目ぼれしたっぼいんだよね」

「ええっ!?マジか・・・」

コクンと頷くクライド。

「・・・だからあんなにニコニコしてたんだ・・・」

「・・・あん時の姉ちゃんは凄かったぞ」

はあ・・・とため息をつくクライド。

苦労してんだろうな・・・

「あ、そういえばさ。苗字聞いてなかったよね」

スコープピウスが唐突に言った。

「そーいえばそうね。」

「んとねー。私たちは知ってる通り、スリザリン。アルバスはポッターで、ローズとフレッドがウィーズリー。リサがウッドバインで、スコープピウスがマルフォイ・・・だったよね?」

ドーセットが一気に言った。

僕とローズ、フレッド、スコープピウスが沈黙する。

「………マルフォイ？」

「あり？どうしたの??？」

リサが聞いてくる。

「……マルフォイ?」「……ポッター……ウイーズリー?」

「?????????」「」

「……私、マルフォイには負けるな!って言われた……」

「……僕もポッターとウイーズリーには関わるなって……」

僕も言われた。

父さんはともかく、ロンおじさんに。

「でもさ、なんていうか……最初に聞いた時の印象と全く違うんだけど。」

「うん、それ同感」

「私も。お父さんと勘違いかな?」

「ちあ?」

「………だったらさー!」

リサが突然言った。

「お父さんたちは仲良くなかったんでしょ？ならその子供たちは仲良くすればいいんじゃないの？」

あ・・・そっか。

「そうだね！ハッキリ言って、僕とスコープウス、気が合いそうって思ったし」

「あ、アルバスもそう思った？僕も同じこと思ったよ。どこが変な奴なのか、全然分かんないよ。」

ニツとスコープウスが笑う。

ガララララ

またドアが開いた。

「車内販売だよ。お菓子いらんかい？」

おっ来た来た〜！

「チョコレートフロッグ31コちよーだい！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9957x/>

輝く花 ~ 短編集 ~

2012年1月14日13時54分発行